

早春に追播し、混播草地を若返らせる

ライグラス類

- 全国的に、混播草地の若返り対策として、ライグラス類、オーチャードグラスなどの追播が奨励され、普及しています。
- とくにライグラス類は、種子をバラ播くだけで発芽良好であり、生育も旺盛で、草生は見ちがえるほど良くなり、高収量が得られます。

*** 早春の施肥量**

過石40^{kg} 尿素20^{kg} 塩化15^{kg}

*** 追播の種子量**

採草地	}	マンモス・イタリアン B	2.0 ^{kg}
		H・ワンライグラス	1.0 ^{kg}
		ラデノクローバ	0.5 ^{kg}
		計	3.5 ^{kg}
放繁牧地	}	マンモス・ペレニアル	1.5 ^{kg}
		オーチャードグラス	2.0 ^{kg}
		白クローバ	0.5 ^{kg}
		計	4.0 ^{kg}

ライグラスの種類と優良品種

種 類	利用年限	品 種 名	特 性
イタリアン ライグラス	1～2年	マンモスイタリアンA マンモスイタリアンB オオバヒカリ ワセヒカリ トットリ系	茎葉巨大、晩生、長期利用型、春まきでは出穂しない。 茎葉巨大、早生、生育早く短期利用に適する。 茎葉大きく晩生、春まきでは出穂しない。農林省育成。 早生で再生も良好。農林省育成。 早生で水田裏作などに適する。
Hワン・ライグラス	2～3年		草姿はイタリアンライグラスに似ている。採草型。
ペレニアル ライグラス	3～4年	マンモスペレニアル	冷涼な気候に適し、葉は細く、放繁牧型。



どこでも誰にも賞められている

マンモスイタリアンA
マンモスイタリアンB

南方型・耐暑性牧草

混播草地の夏枯れ解決!

暖地の夏期は、高温と乾燥によって、一般牧草（北方型）は夏枯れを生じますが、この時期に青々と繁茂するのが「南方型・耐暑性牧草」です。

混播草地への追播

- 時期は春から夏（4月～6月）温度15°C以上になってから行なう。
- 草地の草高が低いときに追播する。
- 土壌水分さえ十分であれば、バラ播き放置で、発芽良好です。
- ストッキング——10⁷ル当り、乳牛3～5頭を3時間放牧し、踏みつけさせれば、発芽率はいっそう向上します。
- 追播後20～30日目にN K化成肥料を30^gくらい追肥してください。
- 追播種子量は

バヒアグラス 1^{kg}

または { バヒアグラス 0.5^{kg}
ケンタッキー31フェスク 1.0^{kg} } 計 1.5^{kg}

注意

バヒアグラスは硬実で、発芽率が悪いので、砂づき（種子量の3～4倍の砂を入れてつく）して発芽を促進すること。

南方型・耐暑性牧草の特性と利用法

種	類	草高	再生力	嗜好性	耐暑性	耐寒性	利用法	
							採草	放繁牧
ダリスグラス		70～150 ^{センチ}	強い	やや良	強い	やや強い	◎	○
ローズグラス		120～150	強い	良	強い	極弱い	◎	○
バーミューダグラス		15～45	強い	やや良	強い	やや弱い	○	◎
バヒアグラス		40～80	強い	やや良	強い	やや弱い	○	◎

イタリアンライグラス（冬）とローズグラス（夏）の不耕起・連続栽培法

イタリアンライグラスの衰退する約1ヵ月前に、ローズグラスを畦間（または全面）に播種すれば、夏期に入りイタリアンライグラスに代ってローズグラスが繁茂します。

またローズグラスの衰退する約1ヵ月前にイタリアンライグラスを播種すれば、ローズグラスに代わって、イタリアンライグラスが翌年夏期直前まで繁茂しますので夏期・冬期共年間平均して青草を生産でき、あたかも永年草地のような不耕起・連続栽培方法が行なわれています。

・播種量 { ローズグラス 1～1.5^{kg},
(10⁷ル当り) { イタリアンライ 2～3^{kg}

(× 播種期, ……刈取利用できない期間)
混生期間

